

五十五万石

近畿税理士会和歌山支部

発行

和歌山市湊通丁北1丁目1-3
TEL.426-3600 FAX.424-1474



「七里御浜」(三重県熊野市)

この夏、ユネスコの世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」。
そのうちの一つ熊野古道伊勢路にある松本峠の展望台から真夏の七里御浜を望む。

目次

| | | | |
|-------------------|---|-----------------|----|
| ごあいさつ..... | 2 | 週末台湾旅行のススメ..... | 8 |
| 着任のご挨拶..... | 3 | 歴史の流転..... | 9 |
| 赤城山幻影..... | 4 | 支部行事風景..... | 11 |
| 成年後見人等研修を受けて..... | 6 | 新入会員等紹介..... | 12 |
| 運命について考える..... | 7 | | |

ご あ い さ つ

和歌山支部長 西岡 義高



残暑厳しい中、会員皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

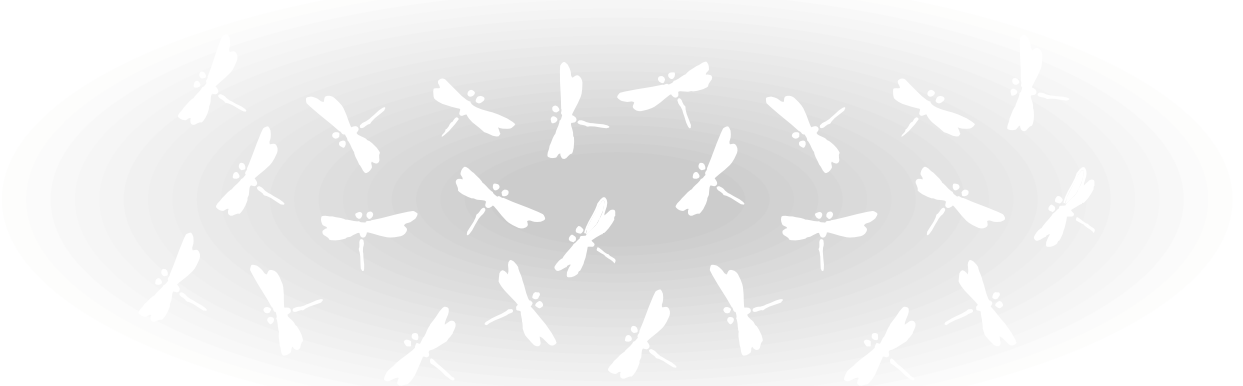
また日頃は会務運営にご協力頂きありがとうございます。

本年は6月より猛暑にみまわれ、去年に比べると雨が少なく暑さの厳しい夏でありました。世界的に見てもヨーロッパ南部では猛烈な暑さとなり、一方、北部では極端な冷夏となった様で、年々地球的規模で異常気象が激しく現れ始めた様に思われます。これらの異常気象と同じくらいの変化が我々税理士業界を取り巻く環境にも現れてきているのです。

電子申告の開始、書面添付制度の普及、36時間の義務研修…。特に消費税法改正による売上1,000万円超の事業者の申告納税への取り組みは、我々税理士業界にとってもビジネスチャンスであると同時に責任の重い問題と言えるでし

よう。売上1,000万円超、3,000万円以下の企業には税理士関与の無いものも多いでしょう。また記帳も無く、確定申告の必要のないものまで含まれるであろうそれらの事業者に消費税の申告、納税を指導していかねばなりません。しかも報酬にみあわない時間と労力を費やすことを考えると、あまり積極的に関わりたくないと思われる先生もいらっしゃるかも知れませんが、いうまでもなく我々税理士は、「納税義務者の信頼にこたえ、納税義務の適正な実現を図ることを使命とする」と税理士法第1条にある通り、社会的使命としてもこれらの納税者により積極的に関与していくべきであろうと思うのです。

会員先生方におかれましてはより一層のご協力をお願いして、ごあいさつと致します。今後とも宜しくお願いします。



着任のご挨拶

和歌山税務署長

安河内 孚 彦



残暑の候、近畿税理士会和歌山支部の諸先生方におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

近畿税理士会和歌山支部並びに会員の皆様方には、平素から税務行政につきまして、深いご理解と格別のご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。

私は、この度の人事異動により、和歌山税務署長を拝命し過日着任しました。

和歌山税務署の勤務は今回が初めてでございますが、当地は、徳川御三家のひとつ紀州藩五十五万五千石の城下町として栄え、万葉集にも詠われた景勝地の和歌の浦など、歴史と伝統に培われた人情豊かな地であり、このような地に勤務できることを大変光栄に思うのと同時に責任の重大さを痛感しております。

ところで、昨今の税務を取り巻く環境は、国際化、広域化、高度情報化の進展等、経済構造の急激な変化に伴って大きく変わりつつあります。

また、あるべき税制の構築に向けた本格的な議論にも見られますように、国民の皆様の税に対する関心はますます高まっております。

特に、情報化に対応して納税者の皆様の利便を図るため、インターネット上でのタックスアンサーの利用、帳簿類の電子データによる保存制度の導入などが行われてきたところであり、さらに今般、国税の申告・納税が、インターネットなどからできる国税電子申告・納税システ

ム(「e-Tax」)をより多くの納税者の皆様に対して一層の利用拡大をお願いしていく予定です。

このような状況にあって、税務行政の運営に当たりましては、我が国の税制の柱である申告納税制度が円滑に機能すべく的確に環境の変化に対応し、適正・公平な課税を実現して、納税者の皆様のご理解と信頼を得ることがますます重要であると考えております。

しかしながら、この目的を達成するには、私どもの力だけでは微々たるものであり、税の専門家として豊かな経験と高い見識をお持ちの税理士先生方のご理解とご協力なくしては到底成し得るものではありません。

近畿税理士会和歌山支部におかれましては、常々税務行政に深いご理解をいただき、税知識の普及と納税道義の高揚等に積極的に取り組んでいただいているところであり、誠に心強く、そのご努力に対し深く敬意を表する次第であります。

今後とも、貴支部との連携を密にし、諸先生方のご意見を十分に受け賜りながら、税務行政の円滑な運営と執行に努めて参りたいと思っておりますので、なお一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、近畿税理士会和歌山支部の益々のご発展と会員の先生方のご事業のご繁栄、並びにご健勝を心から祈念いたしまして、着任のごあいさつとさせていただきます。

赤城山幻影

片山 明

赤城山の特異な山容、突兀として聳える峻厳な山の裾野は、一転して広くなだらかに延々と続き、果ては刀根川に至る。その風景は私の脳裏に焼きついて消えることはない。

昭和十八年現役兵として中部第二十四部隊通信中隊に入隊した私は、同年十一月二十一日甲種幹部候補生を命ぜられた。連隊の受験者八十六名の内、合格者は十二名。その内通信中隊では私が唯一の合格者であった。

当時、軍の事情はわからないが、通信中隊の候補生は前橋陸軍予備士官学校に入学する定めがあり、私は十九年一月、唯一人、群馬県の前橋予備士官学校に入学した。

学校は榛名山の東麓標高三百五十米の地点にあり、北に浅間山、南西に妙義山、そして東に赤城山が聳え、名峯奇峯に囲まれた景勝の地に

ある。しかし何しろ有名な上州名物空っ風の吹く土地であり、積雪は無いがその寒さは正に峻烈を極めた。

そして校庭東方に赤城山の雄大な姿があった。毎朝朝礼の時、眼前に聳える名山赤城山を眺めるのが唯一の楽しみであった。

有田川のゆるやかな流れとなだらかな蜜柑山に囲まれて育った私には、生まれて初めて見る豪快な山の姿は正に驚異であり、朝夕眺めたその景色は私にとって唯一の安らぎを与えてくれた。

さて、平成十年頃、ふとした縁で故田中角衛先生と夕食を共にする機会があった。酒を酌み交わしながら、私は前橋の話をし、是非一度士官学校の跡地を訪ねてみたいと話した。すると後日、田中先生より同地に行くための極めて綿密な地図に、車で行くための案内、例えば休憩地、時間等まで記入して送ってくれた。

そして士官学校は北群馬郡榛東村山子田と言うところにあり、現在学校は自衛隊の駐屯地となっていること、さらに同地の役場の電話番号まで調べてくれていた。私は酒席で話した事に

これほど親切に手間を掛けて調査してくれた田中先生に深く感謝した次第であった。しかるに、この旅行の実現せぬ間に先生は逝去された。かえすがえすも残念であり、御冥福を祈るばかりであった。

平成十四年六月、家内を連れて旅立った。もう、一人で車を運転しての旅行は無理で、汽車旅行となった。

一日目は東京にて靖国神社参拝その他観光をしたが、実は東京で一泊する私の狙いは他にあった。

その一は、「料亭八百善」で食



(画：片山 明)

事をする事である。八百善は江戸以来約三百年続く老舗で、江戸文化形成の一翼を担った高級料亭であり、酒井抱一、渡辺崋山、葛飾北斎、太田蜀山人、近くは永井荷風等一流文化人が常連となった店である。

有名な蜀山人の狂歌に、

“ 詩は詩仏 書は鵬齊に狂歌俺
 芸者小勝に 料理八百善 ”

と、ある。

八百善は江戸東京博物館店にて卯月の献立を味わう。宮尾登美子著「菊亭八百膳の人々」のあとがきによれば、京料理全盛の現在、なお頑なに伝統の江戸料理を守っているとの事。いろいろ思い巡らせながら、待望の料理を味わった。味についてはいろいろ意見もあるが、先ずは至福の時。

次は駒形どぜう。

言うまでもなく、泥鰌専門の料理屋だがここではどじょうとは書かず、どぜうと書く。この暖簾は江戸の名看板書き「撞木屋仙吉」の手による。江戸川柳にも

“ 主は今 駒形あたり ほととぎす ”

と、あるほどの老舗。関西では味わうことの出来ないどぜう鍋。

どぜう鍋には一にも酒、二にも酒。(閑話休題)

翌日、旅行の主目的たる前橋に向かう。生憎、曇天時に小雨。高崎駅より車にて士官学校跡に到着。立派な正門があり、「陸上自衛隊第十二旅団司令部相馬原駐屯地」とある。私は昔の軍隊時代の感覚で勝手に営内に入ること等出来ないと思い、受付の方を見ていると、係官の一人が見え、「何か御用ですか？」と言う。そこで「私は前橋陸軍士官学校時代の第十期生です。館内を見学したいのですが…」と答えると、係官たちの態度が一変し、司令部室長三等陸佐の某氏は懇懇な態度で接してくれ、隊内を案内してく

れた。

隊内に友魂記念館という建物があり、旧士官学校の卒業生の写真が揚げられる戦没者の慰霊室となっていた。私は思いがけず、この様に同じ学生として教育を受けた戦友達が大切にまつられているのを見て、心から感謝し謹んで合掌の上、隊員の方々に心から礼を述べて退出した。

残念だったのは、昔どおり残っている通信中隊の校庭に立ち、昔どおりの位置から赤城山を眺めたが、一面の霧が立ち込めて遂に見ることが出来ず、長く望んできた赤城山の風景は幻に終わった。

その夜は伊香保温泉に泊まる。家内は一滴も酒を嗜まず、豪勢な料理を前にして、一人で呑む酒は真に味気ない。

翌日は又曇天、小雨。

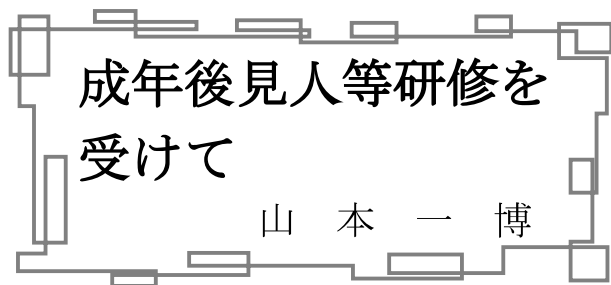
この旅行の主目的である赤城山との再会は、遂に果たすことが出来なかった。運転手に命じて他の名山も巡ったが、いずれも霧に包まれており、空しく引き上げざるを得なかった。

しかし、若き日多忙な士官学校の生徒時代、脳裏に焼きついた赤城山は鮮明なカラー写真の如く私の記憶の中にある。

この度の旅行の主目的であった、赤城山との再会は幻に終わったが、考えてみれば若き日の思い出をそのまま残しておく方がかえってよかったのではないか。

その方が、夢多き青春時代…今と違って暗く苦しい時代でもあったが、その頃朝夕眺めた赤城山の幻の残影は、あまり長くない私の終焉迄心の中に残るであろうから。

完



1. 受講動機

長い間、お世話になった得意先の社長が高齢のため会社を閉鎖することになりました。

最後の貸借対照表及び損益計算書を作成しようとしたが、会社の通帳や社長個人の通帳とかが、どこにも見あたりません。社長は会社を閉鎖するに当たり、退職金を受けとっていますから、必ず通帳はあるはずです。本人に聞くと、あったはずだがなあといったきり、記憶が全然ありません。

奥さんに先だたれて、一人暮らしをしております。家中捜しましたが、通帳等はどこにも見あたりませんでした。幸いにも印鑑がありましたので、取引していると思われる銀行を全部あたり、やっとのことで全ての通帳を再発行してもらうことができました。

いろいろと話をしても、遠い昔のこと、特に戦争中のことなどは良く憶えているけれど、直近のことはほとんど忘れています。このような状況のもとで、法律はどのようになっているのかを知りたいということが受講動機でした。

2. 法改正とその理念

成年後見人制度とは、判断能力が不十分なために財産侵害を受けたり、人間としての尊厳が損なわれたりすることがないように、法律面や生活面で支援する仕組みです。

| | | |
|-----------|--------|---------|
| 成年後見人申立件数 | 平成15年 | 14,462件 |
| | // 14年 | 12,746件 |
| | // 13年 | 9,297件 |
| | // 12年 | 7,451件 |

このように申立件数がどんどん増加してきています。

新しい成年後見人制度が2000年4月1日よりスタートしました。法改正の目的は(1)本人の身上監護(2)財産管理の達成にあります。その基本理念は、(1)本人の残存能力活用による自己決定権の尊重(2)障害のある人も、通常的生活を送ることができるというノーマライゼーションの理念の調和です。任意後見人制度は本人の判断が衰える前に利用できます。本人の判断能力が健常な段階で、あらかじめ契約によって判断能力が低下した場合に後見の範囲や、後見人を定めておくことができるものであります。

本人の判断能力が衰えた後は、法定後見制度が利用できます。これはどこまで保護が必要なのかによって「補助」「保佐」「後見」の三つの利用の仕方があります。

3. 終わりに

今後は成年後見制度の利用者が高齢化の進展と共に加速度的に上昇するものと思われます。成年後見人等は親族によることが必ずしも有効でないことがあります。例えば親族間で仲が悪く、権利意識が強すぎて、被後見人の立場に立ってないことが多くなってきています。

こういった場合に、我々税理士が後見人として、高度な倫理感をもって、財産管理や相続手続をすることができたら、少しでも社会に貢献できることになると思いました。

ただし、我々が後見人になることがあっても、被後見人にならないように日頃から努力していきたいと思いますが、いかがでしょうか？

運命について考える

福井 眞 八

人生は明日が判らないから生き甲斐がある。「持って生れた^{さだめ}運命まで、変えることなど出来ない」と…。あれはおゆきという女」将棋界の重鎮内藤国雄さんの大ヒット曲を思い出すにつけ疑問が生じて来る。

いくら努力しても、そこには限界があって、希望通りの人生を達成するのは不可能だろうか。思惑が外れて頓挫した時いつも思う事である。人生はすべて不公平に出来ている、よい境遇に生れる、頭脳明晰、容貌がよい、健康である。このようにはとても及ばず、只造化の神の意志に委せて出生する。人生は出発点から千差万別で運命としか言い様がない。期待しても抽籤で引き当てるのは空くじが大部分であるように、大抵の人が平凡な人生を送るように世の中は出来ている。出生も天才的頭脳。美貌である者は極めて稀である。

平凡に生れ平凡な人生を送る中に精一杯の努力をする者と平凡が当たり前と思って漫然と暮す者との間に差が出来るのは当然である。

人生は植物の種が埋められた処により、その境遇が大部分決る程、融通性の無いものではなく、出生の条件が如何に悪くとも、それを脱却する努力が功を奏して、成功した例が多くあり、反対に、どれ程条件が良くとも不心得のために失脚した者も少なくはない。

人生には、いくつか転機と云うものがある。例えば、大学受験、就職、資格試験、結婚、等すべて人生を左右する重大問題である。一部例外的な人は別として大抵の人は、これらによっ

て人生が決るもので、どの程度重大視して熱意をもって真剣に取り組むか、いい加減にしか集中出来ないか、その人の気構え、気迫が大きく運命を別ける事になる。運がよければうまく行くかも知れない、碌に準備もせず、その場での体当りで直面するのは社会を甘く見過している。転機はそう何度も繰返せない時が多い。慎重に対処することで、運次第と気易く行くと生涯の負担になることもある。

又この世智辛い世の中、一度や二度の失敗で懲りては駄目で、貫徹する心意気も必要である。

人生には後悔は付きもの、後悔の無いのは反省のないのと同じこと、誰もが経験するものである。只後悔の跡始末をどう付けるかが問題で、災難とも言える事態に遭遇した時、解決に全力を尽すが、その結果が甘かって、後日その影響が尾を引いて悩むことがある。もっと熟考して慎重を期すべきだと思っても始らない事が多々ある。

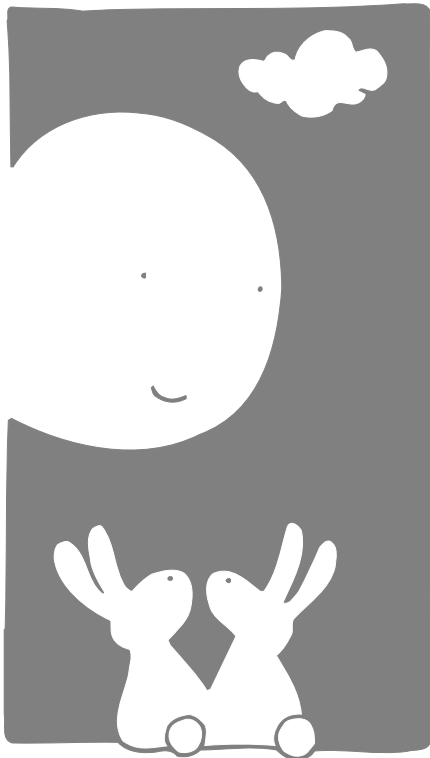
現在、残り僅かになった人生、振り返ってみると、戦争から敗戦へと変動の中を生き抜いたのだから、学徒の青年の時代に考えていた事と正反対な社会に放り出されたから思いもしなかった人生を辿って来た結果になっている。

戦災で焼き出されてホームレス同様の社会への出発だったから、最低の条件から始った。生きんがために自尊心や誇りを問題にして居られない世の中で最少限の衣、食、住さえも俸ならない収入ですら働かねば保証の無い荒廃した社会状況だった。

負け惜みではなく零からの出発は気楽でもあった。失うものは何もない。向上するために見栄を没却して働いた。同窓生の中に戦没者や、自分以上の悲惨者もあると思うとまだ五体健全で働けるのは結構だと思った。大学入試で散々苦勞したが運命に見放されたのか、報はれない

俣に敗戦となった私でしたが、戦後幸運が廻って来たからか、もう駄目だと観念して飛び移った職業数回、これが結果論であるが、現在の基礎になる経験となっている。この歳になるも現役で残存出来るのも過去の下積時代からの積み重ねのおかげだと信じている。最悪の運命を辿っていると感じた際、それを悲観していないで、それを脱する努力こそが一番尊いと感じました。古い言葉に「如何に雨繁くとも七十日を出ずることなし」とあったが、いくら不運ばかり続いても生涯不運ばかりはない。「吉凶^{あざな}糾える繩の如し」との言葉通りと思はれる。

「負けてたまるか何とかせねば」のスパルタ根性が私を支えて来た。今更どうなるものでもないが、今まで頑張ってきたのだから最後まで続行したいと思います。



週末台湾旅行のススメ

南方 麻友子

「あなたにとって旅とは？」

そんな質問をされたら皆様は何と答えるでしょうか？

私は迷わず「旅とは食べること」と答えます。そんな私の食欲を満たしてくれるのが台湾です。台湾に行くと食べたいものが多すぎて「食事と食事の合間に何をしよう？」と悩み、胃がひとつしかないことを悔やんでしまうほどです。また台湾に住んでいる日本人に会うとおいしいものなどを聞いて情報収集を怠りません。

私は飲食店に対してあるこだわりがあります。「高いレストランでおいしいのは当たり前、高いレストランでおいしくないのは最低、安くておいしいお店が最高のお店！」です。とにかく立ち食いで屋台でも汚いお店でもおいしければOKです。ですからガイドブックに載っている豪華な料理が出てくる高級レストランには行ったことはありません。いずれにしても、台湾の食べ物はレベルが非常に高くどれも満足のいくものばかりですが、私の好きなものをランキングにすると次のようになります。

- 第1位 豆乳（台湾では豆漿といいます。）
- 第2位 酸菜白肉火鍋（北京式鍋）
- 第3位 担仔麵（1杯200円くらいの麵です。）
- 第4位 マンゴーかき氷（かき氷の上に氷が見えないくらいマンゴーがのっけていて約300円です。）
- 第5位 小籠包（薄い皮に熱々のスープが入った小さな肉まんです。）
- 第6位 台湾茶（金萱茶というミルクの香りをするお茶が一番好きです。）

上位3つは特に気に入っています。豆乳は台湾では朝食の代表的なメニューであちこちに豆乳店があります。油條という揚げパンや焼餅という中華風のパイと一緒に食べます。これが日本のものと味が違い、今まで飲んでいた豆乳は何だったのかと驚いてしまいます。台湾の豆乳を毎日の朝食にしたいくらい好きです。

以前上海に行った時に「上海で火鍋のお店に入るときは気をつけて。麻薬を入れて出すお店があるから」と言われたことがあります。麻薬が入った火鍋はやみつきになりお客さんが通いつめるとのこと。本当にそんなお店があるかどうかは別として(コストがかかりすぎるような気が・・・)、酸菜白肉火鍋という酸っぱい白菜と豚肉の入った北京式の鍋は、とにかく味わったことのないおいしさでやみつきになります。

しかし何といっても、台湾の一番の魅力はやはり世界で一番親日的とも言われる台湾の人たちの笑顔と温かさだと思います。いくら食べ物が美味しくても、日本人と見るとなり「だまそう、ぼったくろう」という態度をしたり、笑顔がなかったりすると行きたくなくなります。台湾はアジアの中であってそういう嫌な思いをしたことがほとんどありません。また街を歩いていると「日本の方ですね。ようこそいらっしゃいました。ゆっくり観光して行って下さい。」ととてもきれいな日本語で声をかけて下さるお年寄りの方に必ず出会います。若い人も親切で、道を尋ねると目的地まで連れて行ってあげることも多いです。地下鉄に乗ると若者が年輩の方に席を譲る光景もごく普通に見ることができます。

台湾へは週末に気軽に訪れることができますし、美味しい料理と人々の笑顔が必ずリフレッシュさせてくれます。週末、胃を空っぽにして温かい笑顔を持つ人々の待つフォルモサ台湾に出かけてみませんか。

歴史の流転

小山 弘

紀元は2600年であると、祝福したのは昭和15年である。今から64年前である。今、回顧すれば昭和年代の若々しい時代であった。ところが、昭和15年は大変な歴史の年であった。

1. 昭和12年7月に勃発した日支事変は次第に泥沼化していった。
2. 現中国の背後に米国がいるとのことで、日本の軍部は翌年16年12月(日米戦争の発生)を控えて、厳秘の中で日米戦争の準備をしていた。

紀元2600年は日本の国定歴史書であった日本書紀によれば日本の建国は紀元前(B.C)660年であり、昭和15年は西暦1940年に当たっているので、合計すると紀元は2600年となる。

(註 中国の建国は 紀元前(B.C)221年

韓国の建国は 紀元前(B.C)57年

国家の国内行事として2600年祝賀・祝福行事が全国的に展開された。昭和15年2月11日(紀元節の日)の前日、2月10日にある事件が発生した。本稿はこの日のことについて説明を進めたい。

その事件の人物は津田左右吉氏(1873~1961)肩書は早稲田大学教授で文献歴史学者である。彼は大正4年(1913)「神代史の新しい研究」また、大正9年(1919)「古事記及び日本書紀の新研究」の発表していた。大正年間の著作である。真面目な労作、「皇室尊敬者」と自称し、かつ合理主義者らしい学派の人物であった。

前述の紀元節の前日2月10日に突如として大正年間の著作本が発売禁止となり、2年後の昭和17年には告発された。結果の判決では有罪の

処分をうけた。劇的である。

具体的な内容は

神武天皇（第1代天皇B.C660年）から仲哀天皇（第14代A.D192年）までの御歴代の天皇の存在について疑義を抱かせることによって、皇室の尊厳を冒瀆する文書を著作したことである。今風な表現で換言すると6世紀以前の記（古事記）・紀（日本書紀）に記載されて伝承（いつたえ）の類は歴史的史実は一切ない。ねつ造、創作されたものであると、神代等の古代史を否定した。

ところが、星霜流れ、敗戦、天皇の人間宣言、進駐軍の上陸、占領等歴史の回転の結果は、現在の日本の古代歴史は次のように改められている。

1. 先土器文化時代 約50万年前
2. 縄文（土器）文化時代 約12000年前～西暦300年前
3. 弥生（土器）文化時代 西暦300年前～西暦300年
4. 古墳文化時代 西暦300年～西暦500年

以下、奈良時代、平安時代、鎌倉時代（中世）と継続する。

土器等を使用した変則的名称で全国統一されている現状である。

例えば、和歌山市で有名な岩橋千塚古墳群はいつの時代のものかの質問に対し、戦前では〇〇天皇の時代であったと答えたが、それは古墳時代のものです。との答えがあっても、国民大衆にはまったく疎遠空文なものとなっているのは非常に残念なことである。

ところが、津田左右吉氏の予想予言どおりの展開となり、津田氏は敗戦後一躍してヒーローとなった。

死者に鞭打つは劣かなりと言葉があるが、どうか？私の読んだ雑誌に次のタイトルで詳細な

反論が展開されている（KK文芸春秋、平成14年5月13日臨時増刊、諸君）

「古代史を抹殺した津田左右吉氏の大罪、厳密な史料の名の下に記・紀を為政者による造作の書と決めつけた、貧しき精神」とある。反駁文を書いたのは作家高城修三氏であり、彼は京大文学部卒で78年に芥川賞を受け、その著作に「紀年を解説する。古事記・日本書紀の真実」がある。

彼の主張から判断して、皇国史観の立場にある研究者である。

反論の細部は割愛するが要するに日本には天皇が作成を命じた、日本書紀・古事記の古代資料があるから、これに批判、修正を加えて検討すべきである。最近では考古学者や中国古代資料によって文字のない時代の歴史を創作している。津田氏はこの意味で大きい罪を犯したと。

本稿は日本古代史の勉強中たまたま発見した津田左右吉氏を通じて、昭和10年代から70年間の概観したが、歴史流転の大きさ（激動）に驚くばかりである。



支部行事風景



資産税研究会/H16.1.22



資産税研究会/H16.3.29



第24回支部定期総会/H16.5.14



第24回支部定期総会懇親会/H16.5.14

新入会員等紹介 (敬称略)

入会

税理士法人 木村税務事務所 平成16年3月23日 和歌山市毛革屋丁17番地



角田 泰宏 平成16年3月24日 和歌山市加納3番地の8



高井 裕美 平成16年4月23日 和歌山市西小二里3丁目2番5号



北山 善之 平成16年5月20日 和歌山市太田429番地の2 オオタビル303号室

退会

岡本 繁男 (死亡) 平成16年2月9日

川端 邦彦 (業務廃止) 平成16年2月12日

辻 康男 (業務廃止) 平成16年3月17日

中北 典夫 (死亡) 平成16年4月1日

杉若 哲弘 (死亡) 平成16年4月21日

柳 等 (死亡) 平成16年5月28日

木村 光男 (死亡) 平成16年7月22日

会員報告

会員数 平成16年8月20日現在 239名

編集後記

今年もすでに上半期が過ぎましたが、三菱自動車のリコール隠し問題、入浴剤入り温泉、近鉄とオリックスの合併問題等数々の問題が各新聞の紙上を賑わしております。

三菱のトラックから始まり乗用車も多くの不具合箇所が、何年も遡って多数公表され、その過程に於いて、経営トップの判断で、内部で秘密裏に部品の修理取替が行われ、リコール隠しが公にされ、元社長を含んで旧経営陣に逮捕者が複数にのぼった。

長野県の白骨温泉で、公共野天風呂などに入浴剤が使われていた事件は、観光客の信頼を裏

切る行為だが、一方で、一般的には温泉でわき出たお湯をそのまま使うことは少ない現実もある。

これを機に、より正確な情報を提供してもらいたいと願う次第です。

皆様の御協力により、今回で「五十五万石」第18号を発行することができ、心より感謝いたします。

まだまだ続きそうな暑さの中、皆様にはご清祥にて過ごされることをお祈り申し上げます。

広報委員 北 岡野 小西